

【特集一】

「長崎の幕末維新一五〇年」趣旨説明

長崎市長崎学研究所

特集一「長崎の幕末維新一五〇年」は、長崎市長崎学研究所が平成三〇年（二〇一八）一月二一日（日）に、長崎歴史文化博物館で開催した「長崎の幕末維新一五〇周年記念シンポジウム」の事業成果をもとに、幕末維新时期において長崎が果たした歴史上の役割を顕在化することを目的として行うものです。

平成三〇年は、明治元年（一八六八）の幕末維新から数えて、ちょうど一五〇年目にあたることから、長崎市ではこれを記念して、九月から一二月までの期間「ながさき幕末維新祭」を開催し、幕末維新に関連する文化観光施設での展示、講演会、観光イベントを行いました。

「長崎の幕末維新一五〇周年記念シンポジウム」も「ながさき幕末維新祭」の一環として開催されたものです。

当該シンポジウムでは「長崎の幕末維新」という共通テーマを設定し、その時代の主役であった幕府、薩長土肥、長崎それぞれの立場から、幕末維新史の研究者八人を招聘して、基調講演、研究報告、パネルディスカッションを実施、数多くの市民の皆様にご出席いただきました。

講師及び題目は以下のとおりです。

【基調講演】

「幕末維新期の天皇と外圧」

藤田 覚 氏（東京大学名誉教授）

【研究報告及びパネルディスカッション】

「明治新政府の長崎統治と佐賀藩」

吉岡 誠也 氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究員）

「幕末の長崎と下関―両地の関係―」

田中 洋一 氏（下関市立歴史博物館主任学芸員）

「長崎の龍馬―慶応三年八・九月―」

宮川 禎一 氏（京都国立博物館学芸部上席研究員）

「安政の開港とオランダ通詞」

織田 毅 氏（シーボルト記念館長）

【パネルディスカッション】

横山 伊徳 氏（東京大学史料編纂所教授）

松尾 千歳 氏（尚古集成館長）

木村 直樹 氏（長崎大学多文化社会学部教授）※

※パネルディスカッションでのコーディネーター

なお、シンポジウム当日の午前中には、パネリストの一人でもある横山伊徳先生による、平成三〇年度の第四回長崎学ネットワーカー会議公開学習会「オランダ貿易会社と幕末維新」も開催されました。

本特集は「長崎の幕末維新一五〇周年記念シンポジウム」のうち、①藤田覚先生による基調講演録「幕末維新期の天皇と外圧」、②パネルディスカッションの口述録、以上の二部から構成されています。これらの成果によって、長崎の幕末維新の研究がより一層進展し、広く市民の皆様にも、興味関心を持ってもらうためのきっかけづくりができましたら幸いです。

最後になりましたが、本特集に対する原稿のご提供など、多大な



【主催者代表挨拶】
長崎市長 田上富久

るお力添えをいただいた八人の先生方に加え、一連の事業の企画段階で数多くの助言をたまわりました、木村直樹先生をはじめとする長崎学ネットワーク会議理事の皆様方に対し、この場をお借りして厚くお礼を申し上げ、趣旨説明といたします。



【研究報告】田中洋一「幕末の長崎と下関一両地の関係一」